

白峯寺（しろみねじ）

白峯寺は高松市と坂出市の境にある五色台の5峰の一つ、白峰山にあります。四国遍路八十八ヶ所の第81番札所であるこの寺院には巡拝者が引きも切らずやってきて、山腹にある寺内の多くのお堂で祈りを唱えます。その一部は16世紀、17世紀にまでさかのぼるものですが、これらの建物のうち6棟は、十二支の12匹の動物の一つあるいは複数に捧げられています。お堂の前には小さな彫像が置かれて、どの動物がどこで祀られているかが示されており、また訪れる人が自分の十二支に対応するお堂を見つける助けになります。

興味をそそられる白峯寺の別の建物に頓証寺殿があります。正面に拝殿があり、その背後に小さな社が3つあって、廊下で拝殿とつながっています。左右の社はそれぞれ神道と仏教の神々に捧げられており、中央の社は崇徳天皇（1119-1164年）を祀っています。天皇は宮廷での権力闘争に敗れ、当時は遠隔の地と見なされていたこの地に配流されました。天皇は配流後にこの地で亡くなり、白峯寺の隣にあるささやかな墓所に埋葬されました。

寺院の境内を見学したら、白峯寺の山門から徒歩か自動車で数百メートル戻ると道沿いに白峰パークセンターがあります。ここには屋上展望台があり、坂出市域、瀬戸大橋、そして「讃岐富士」とも呼ばれる（「讃岐」は香川県の旧称です）、完璧な円錐状の飯野山の、素晴らしい景色を眺めることができます。